

【様式1】令和6年度 小林市立永久津小学校 自己評価書

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	笑顔と思いやり、意欲あふれる永久津っ子の育成 ～ 学校・家庭・地域が一体となって伝統と絆をつなぐ ～
--------------	---

知育		【重点目標】 学力の向上を図る。			
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 基礎的・基本的な 学力の定着と活用力 の向上	・ アンケート(児童、 保護者、職員)肯定的 評価 80%以上 ・ 70%以上の児童 CRT 正答率向上 ・ 国語算数単元テスト 平均 80 点以上	・ 教材研究の時間確保 ・ 日常的授業改善 ・ 1 人 1 回以上の研究授業 ・ 授業やぐんぐんタイムにおいて習熟の 時間確保	3		○ 年間を通して、高学年の週当たり時数を 27 時間～28 時間程度で実施することで、教職員がゆとりをもって教材研究や校務を行う時間を確保した。また、会議・研修を水曜日に固定することで、教職員が見通しをもって学級事務に取り組むことができるようにした。 ○ 1 人 1 回の研究授業を通して「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を図る授業展開の方法を模索することができた。中学校との合同研修も年 2 回設定することで、幅広い視点から授業について学ぶことができ、日常的授業改善に生かすことができた。 ○ ぐんぐんタイムなどの時間設定とともに、タブレットドリルを取り入れることで、児童がいつでも手軽に習熟に取り組むことができる環境づくりに努めた。 ○ 単元テスト算数、CRT の個人の伸び率が目標値に届かず、今後さらに基礎基本の徹底と個に応じた指導の充実を図っていく必要がある。
2 個に応じた指導の 充実	・ アンケート(保護 者、職員)肯定的評価 80%以上	・ 児童の実態把握と個に応じた指導の工夫 ・ 個別最適な学びの推進	2	2.3	○ 授業における形成的評価、テストにおける診断的評価をもとに、個別指導を実施した。学級担任だけでなく、管理職も協力したり、児童が自分で学習を進めることができるように「スマイルドリル」等も準備したりすることで、個に応じた指導の充実を図った。しかし、教職員や保護者のアンケート結果を見ると取組が十分ではなかったと

					<p>感じる。組織的・計画的に取り組むことができるように、次年度の取組を考えておく必要がある。</p>
3 主体的・協働的に学ぶ児童の育成	・アンケート(児童、保護者、職員)肯定的評価 80%以上	・職員研修を中心とした主体的・協働的な学習についての研修実施	2		<p>○ 主題研究を中心に「主体的・協働的な学習」について「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点を通して研究を深めた。しかし、理論的な部分を深めることができず、継続した取組が必要である。</p>
4 ICT 機器の効果的な活用	・アンケート(保護者、職員)肯定的評価 80%以上	・効果的な ICT 機器活用の推進 ・校内自主研修会の実施	3		<p>○ 定期的に ICT 研修会を実施することで、ICT 機器活用の知見を深めた。また、合同授業など、一緒に授業をする機会を通して、互いの ICT 機器活用の方法について、情報交換を行うことができた。</p>
5 将来を見据え、学ぶ目的を意識させた学習指導	・アンケート(児童)肯定的評価 80%以上	・目的意識を持たせた授業展開 ・地域素材を生かした学習の推進	2		<p>○ 学校長の設定した重点目標について、集会などで職員が話す場を設けたり、外部講師の方を招いての授業を定期的に実施したりするなど、将来について考える機会を設けたが、児童の中には、将来の夢をもつことができない児童もいた。今後も取組を継続することで、児童が将来のことに希望をもてるようにしていきたい。</p> <p>○ 年度当初に、各学年の体験学習や地域の人材を活用した学習を行事予定表に組み込んでおくことで、計画的に学習を進めることができるようにした。</p> <p>○ 今後も新聞を活用した地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせるための取組をさらに充実させていきたい。</p>
6 基本的学習習慣の確立	・アンケート(児童、職員)肯定的評価 80%以上	・日常的な指導	2		<p>○ 日常的な指導と学級活動の時間を中心に、よりよい学習習慣の確立を図った。しかし、忘れ物をする児童が固定化されたり、宿題の取組が十分ではない児童が固定化されたりするなど、個に応じた指導が十分ではなかった。今後は学級担任を中心としながらも、立腰や鉛筆の持ち方と合わせて組織的に対応できるように協議する場を設定していきたい。</p>

徳育		【重点目標】豊かな心の教育を推進する。			
目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 基本的な生活習慣の定着(あいさつ、廊下歩行)	・アンケート(児童、保護者、職員) 肯定的評価 80%以上	・日常的な指導 ・集会や集団下校時における評価や指導	2	2.7	○ 学校の中など決まった相手に対しては挨拶できるが、地域の方に対して進んで挨拶ができていない。そのため、学期に1回は教職員と保護者が一緒に挨拶運動に取り組むと挨拶がさらに良くなっていくと思われる。 ○ 今後も明日の準備や整理整頓、携帯電話の使い方等、家庭での基本的な生活習慣の確立に向けて保護者と連携して取り組む必要がある。
2 いじめ・不登校の根絶	全員登校 100 日以上 いじめ早期発見率 100%	・生活に関するアンケート、教育相談及び・I F 委員会の実施 ・日常的な観察による児童理解及び支援	3		○ 毎月のアンケートの他にも児童の日常の態度や日記などから早期発見を目指す。また日常的に友だちを思いやる気持ちを育てる指導も必要である。
3 道徳科教育の充実	・「学校生活は楽しいと思う」アンケート(児童) 肯定的評価 90%以上 ・アンケート(職員) 肯定的評価 80%以上	・道徳授業充実のための教材研究 ・栽培活動の充実(学級園・一人二鉢運動) ・全校放送での誕生日児童の紹介	2		○ 「学校生活が楽しい」と思う児童は多い。児童の交友関係について、担任が配慮し、懸念される場合も保護者と連携しながら対応することができた。 ○ 一人二鉢については、お世話がよくできているが、夏場の学級園に関しては、草取りなどができていないところがあったので、朝の学級の時間などを利用し、お世話をすると良い。
4 読書と新聞活用の推進	・年間一人 100 冊以上の読書量 ・新聞投稿年間 100 本以上	・図書支援員との連携 ・委員会活動での呼びかけ ・学校長による新聞投稿の協力 ・新聞掲載者の紹介	2		○ 図書支援員との連携により教職員及び児童が利用しやすい環境づくりに取り組むことができた。また委員会でも年3回のイベントを計画することで図書室利用を呼び掛けることができた。しかし、図書室利用者や貸出冊数は年々減っているため、さらに取組を工夫する必要がある。
5 体験活動の推進	・アンケート(職員) 肯定的評価 80%以上	・外部講師の積極的活用(読み聞かせボランティアなど) ・体験活動への積極的参加(米作り・そば打ち・小林観光地巡り・市議会見学など) ・市バスの有効活用	3		○ 月行事計画案に掲載することで、漏れなく計画通りに実施できた。また、市バスの空き状況も確認することで、年度初めに計画していない内容も実施することができた。
6 安全安心な学校づくり	・アンケート(職員) 肯定的評価 80%以上	・定期的安全点検 ・日常的巡視	4		○ 月1回の安全点検で危険箇所を察知し、安全な学校生活を送ることができた。

体育		【重点目標】 基礎体力の向上とがんばりぬく力を育成する。			
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 体力向上プランを意識した基礎体力の向上	・体力テストＴスコア 全国平均以上 80%以上	・体育授業における体力向上プランの実践 ・運動強化期間の設定 ・外遊びの促進	3	2.5	○ 落ち込みのある種目長座体前屈・50m走について改善プログラムを実施し、2月に2回目の測定を実施する。 ○ 測定の方法について共通理解を図る。
2 外遊びの奨励	・アンケート(児童) 肯定的評価 90%以上	・運動に親しむことができるような環境整備 ・自力登校の推進	3		○ 外遊びをしている児童 90%で達成できている。 ○ 自力登校90%で、おおむね達成できている。
3 むし歯治療の向上	・ む し 歯 治 療 率 100%	・各学年へ歯みがき指導 ・未治療者への受診勧告 ・保健便りによる啓発 ・フッ化物洗口の実施	2		○ むし歯治療率1月上旬現在 35%。引き続き根気強く受診について対象家庭に呼びかけていく。 ○ フッ化物洗口は、予定通り実施できている。
4 欠席0の日の実現(月)	・欠席0の日100日以上	・欠席理由の把握 ・不登校傾向児童への支援・指導	2		○ 2月6日現在で56日。全職員で連携して支援指導にあたっている。

食育		【重点目標】 食に関する感謝と望ましい習慣を育む。			
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 食育指導の充実	・アンケート(児童、保護者、職員) 肯定的評価 80%以上 ・残食調査(月平均4 kg以下) ・弁当の日の実施年間2回	・食べる量と偏食について日常的な指導 ・給食献立ホームページへの掲載 ・食に関する体験活動	3	3.5	○ 給食に関する児童の自己評価88%と、好き嫌いせずに給食を食べることができている。 ○ 食事のマナーに対する保護者の自己評価 74%で改善の余地があるので、学校保健委員会、給食だより、ほけんだより、ホームページ等を活用して更なる家庭との連携を図りたい。 ○ 教育課程に沿って各食育に関する行事を計画的に実践できている。 ○ 弁当の日を計画的に実施できた。
2 食物アレルギー対応の徹底	・アンケート(職員) 肯定的評価 80%以上	・食物アレルギーに関する職員研修の実施 ・複数の目による組織的管理	4		○ アレルギーに関する職員の自己評価100%で達成できた。 ○ 年度始めに学校薬剤師を講師に招き食物アレルギー研修を実施できた。

その他		【重点目標】 地域・保護者・永久津中学校との連携の推進を図る。			
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 小中合同による研修 や行事の実施	・小中合同研修、小 中合同職員会年3回 以上	・小中合同研修及び小中合同職員会の実施	4	4	○ 内容を精選し、必要な研修、会議は実施することができ、小中連携して行事等を進めることができた。
2 地域行事への協力	・アンケート（保護 者）肯定的評価 80%以上	・児童及び保護者への地域行事への協力依頼	4		○ 学校行事に多くの地域の方々に協力いただいた。 ○ 永久津どんと祭りや健幸こばやし大運動会など、地域が主導する行事にも多くの児童や生徒が参加できた。
3 学校の情報発信(学 校だより・ホームペー ジ)	・学校だより毎月発 行 100% ・ホームページ毎月 更新 100%	・学校だより毎月発行 ・ホームページ毎月更新	4		○ 学校だよりやホームページをとおして、学校行事や各学年の取組等を積極的に発信することができた。